

## 5. 全体計画目標

## 5.1 新キャンパスの全体計画目標

---

新キャンパスに求められる性能指針にもとづく新キャンパスの全体計画目標は以下の通りである。

### (1) 学府・研究院制度の理念を実現する空間構成とその管理・運営の確立

活発な研究・教育活動を支えるための空間構成とその管理・運営方法を導入し、大学改革による新しい大学組織の理念を実現する。即ち、従来の施設・空間の構成や非効率的な利用、管理・運営方法を見直すことにより、社会的変化に対して柔軟に対応でき、一体的な施設・空間の活用を可能とする空間構成とその管理・運営方法を新キャンパスにおいて確立する。

### (2) 東西骨格に支えられる総合大学としての一体的な研究・教育環境の構築

新キャンパスの広大な敷地の有効利用を図ることはもちろんのこと、総合大学としての一体感を創り出すための東西骨格を形成することにより、学際的研究・教育の活性化を促すコンパクトな空間構成と施設配置、および動線計画の実現を図る。

### (3) 経営を視野に入れた産学・地域連携と国際交流の拠点

#### 「タウン・オン・キャンパス」の戦略的育成

将来的な経営を視野に入れた活発な産学連携、地域連携、国際交流を支援する拠点として、新キャンパスのメイン・ゲート地区を「タウン・オン・キャンパス」と位置づける。この「タウン・オン・キャンパス」では、大学独自によって整備する施設の立地に加え、民間資金等の導入による連携・交流施設等を積極的に誘致・集積し、地域と世界に開かれた大学の顔としての拠点の育成を図る。

### (4) 民間施設等の活用や立地誘導による研究・教育の活性化と生活支援の促進

大学の自律と経営を視野に入れ、新キャンパスでの教育・研究の活性化および生活支援を目指し、積極的に民間が経営を行う施設や寄附による施設の立地誘導を図るとともに、民間施設等の学外施設の活用を図る。

(5) 伝統を創り出す象徴的空間と柔軟に変化・増殖する空間の共存

新たな伝統を創り出す場として、人々の記憶に残る空間を創り出すとともに、時代の変化や社会の要請に応じて柔軟に変化し得る施設群の立地する空間を計画的に配置する。

(6) 糸島地域の悠久の歴史と自然との共生

埋蔵文化財等の歴史環境の保存・活用と自然環境や自然景観の保全に努め、これらと共生する新キャンパスの形成を目指す。

(7) 安心・安全で快適なキャンパス環境の整備

キャンパス・ライフの観点を重視し、立地条件を活かした憩いの空間や知的欲求を喚起し、高密度で活気のある空間等を屋内外に計画的に配置し、安心・安全で快適なキャンパス環境の整備を図る。

(8) 多様な技術に支えられたサステナブル・キャンパスの形成

安心・安全で快適な研究・教育活動を保障する技術として、I T(情報通信技術)、セキュリティ管理と災害時の危機管理システム、F M(ファシリティ・マネジメント)、環境負荷物質の排出削減等の環境技術を積極的に導入し、サステナブル(持続可能な)・キャンパスの形成を目指す。

(9) 新しいシステムの創造にチャレンジする実験都市の構築

新キャンパスは、九州大学がこれまで進めてきた「P & P(研究教育プログラム・研究拠点形成プロジェクト)」や、「C & C(チャレンジ・アンド・クリエーション)」等の研究・教育成果の更なる発展としての学習システムや教育プログラムの導入、自然・新エネルギー利用システムや循環型システム等の構築、また、生物多様性保全システム等の創造にチャレンジする実験都市を目指す。

## 5.2 マスタープランの構成と検討のフロー

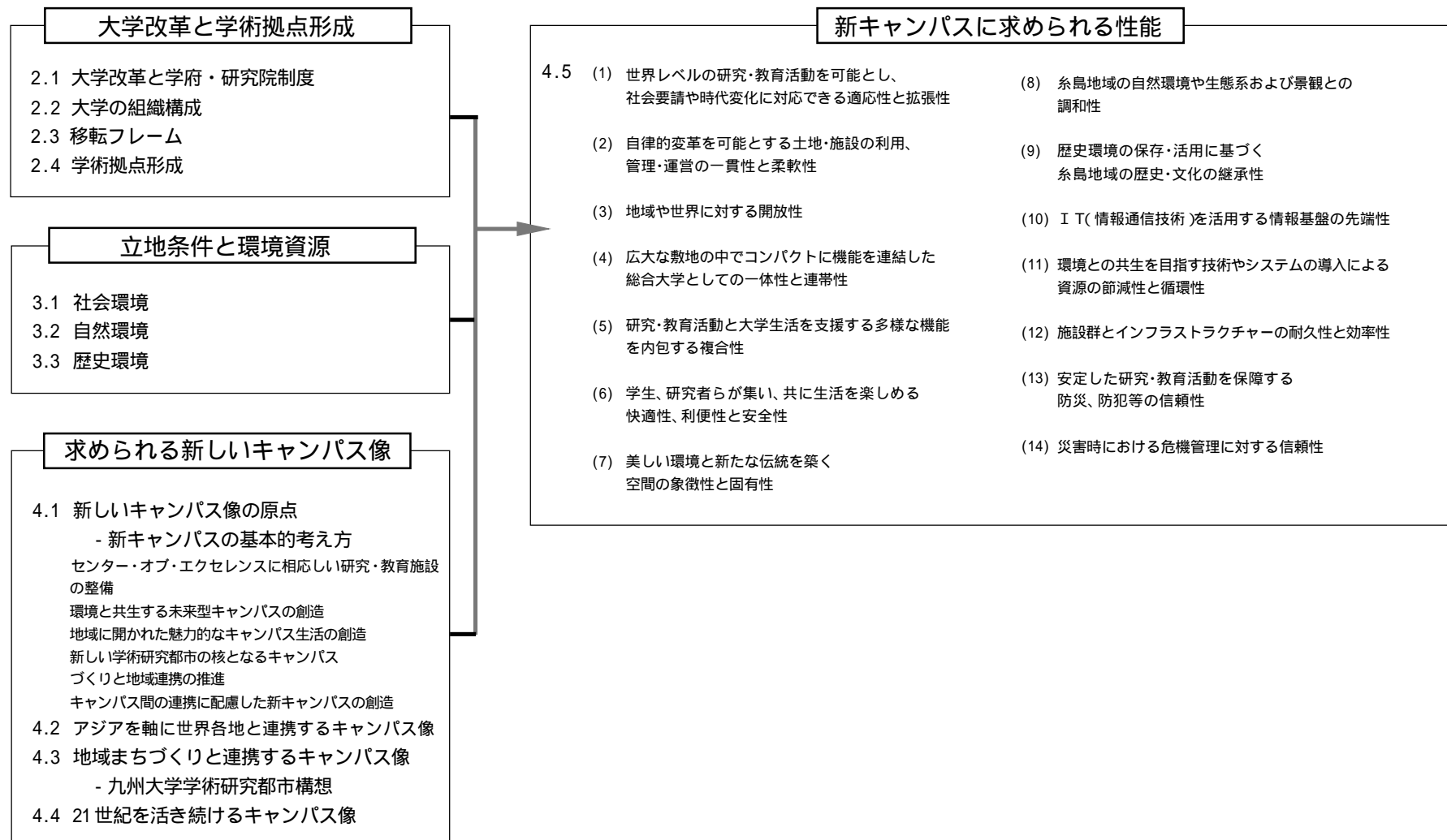


図5-2-1 マスタープランの構成と検討のフロー



